

では今回も引き続き、受験生が引っかけやすい、またその見極めに苦労する問題に  
的を絞って知識を整理しましょう。

それでは早速問題です。以下の英文中の空欄に入れるのに最もふさわしい選択肢を  
選んでください。

1. Her weight-loss plan result (            ) failure.

- ①to          ②with          ③from          ④in

2. He bought me a new dress which I had been anxious (            ).

- ①for          ②about          ③to          ④with

3. (            ) my recent tour, I got acquainted with many celebrities.

- ①for          ②during          ③while          ④among

4. Just after putting her son to sleep, (            ).

- ①Nancy got a telephone call  
②the telephone rang  
③the door bell was heard to ring  
④a strong earthquake occurred

5. The storm raged all night, during (            ) time the climbers waited to  
be rescued.

- ①which          ②how          ③whose          ④what

6. His stomachache grew worse. (            ), he didn't complain.

- ①But    ②Still    ③Though    ④So

【解答&解説】

1.

Her weight-loss plan result (            ) failure.

- ①to            ②with            ③from            ④in

《解答》

- ④(彼女の減量プランは、結果として失敗に終わった)

《解説》

result と言えば、result from しか知らないという人は引っかけになってしまう問題。動詞の result は from 以外に in も直後に取りうるのだ。両者の意味の違いと使い分けの仕方を整理しよう。

(1) A result from B: Bが原因でAが起きる(生じる)

この表現は、「A=結果(後)」、「B=原因(先)」の関係になるのが特徴。from には元々「～から」、つまり「←」のイメージがある。それを引っ掛かりにしてAとBの関係を頭に入れよう。例文で確認してみよう。

(ex) Sickness often results from eating too much.

病気はしばしば食べすぎから起こる。

確かに「病気=結果(後)」、「食べ過ぎ=原因(先)」だ。from だけに「←」のイメージで理解できる。

(2) A result in B: Aは(結果として)Bに終わる(となる)

この表現は、「A=原因(先)」、「B=結果(後)」の関係になるのが特徴。in には come in(～に入る)のように「～の中に」、つまり「→」のイメージがある。それを引っ掛かりにしてAとBの関係を頭に入れよう。例文で確認してみよう。

(ex) Eating too much often results in sickness.

食べすぎの結果よく病気になることがある

これは先程の英文のAとBにあたる内容が前後ひっくり返った表現でわかりやすい。

(ex) The drought resulted in the worst wheat harvest since 1965.

かんばつのため、小麦は1965年以来最低の収穫だった

この英文でも確かに「干ばつ＝原因(先)」、「最低の収穫＝結果(後)」だ。  
in だけに「→」のイメージで理解できる。

そこで本問だが、「彼女の減量プラン」と「失敗」との関係は「原因(先)と結果(後)」の関係、つまり「→」で表せる。従って④(in)が正解になるのだ。

ちなみに result には「結果(=effect)」という名詞の意味もあって、以下のような(名詞の result を用いた)決まり文句はおさえておきたい。

(1) as a [the] result, S + V ~ : その結果として、～

= with the result that S + V ~

(ex) He worked too hard, with the result that he was taken sick.

彼は勉強しすぎた結果病気になった

(2) as a [the] result of A : Aの結果として

(ex) Prices are dropping as a result of oversupply.

供給過剰のため物価は下がりつつある

## 2.

He bought me a new dress which I had been anxious (            ).

①for      ②about      ③to      ④with

《解答》

①(彼は私がずっと欲しいと思っていた新しいドレスを買ってくれた)

《解説》

be anxious ときたら「be anxious about A: Aを心配する」しか知らなかったとい

う人は勉強不足。

「be anxious for A: Aを切望する」という表現も受験では頻出。本問では、文脈から①(for)を選択する。

3.

( ) my recent tour, I got acquainted with many celebrities.

①for      ②during      ③while      ④among

《解答》

②(最近した旅行中に、多くの有名人と知り合いになった)

《解説》

「～の間」という表現にはいろいろあってややこしい。本問の4つの選択肢はすべて「～の間」と訳せる。いい機会なので、ここできちんと整理してみよう。

まず「形」からすぐ消せる選択肢が③(while)だ。whileは「～の間(時)、～しながら」という意味では(従位)接続詞。直後には「S+V」の構造を取る。

(ex) You should get ready while I am playing with my daughter.

私が娘と遊んでいるうちに準備をしまいなさい

While you are in London, you should call on him.

君はロンドンにいる間に彼を訪問すべきだ

本問では空欄直後には名詞しかなく、S+Vの構造にはなっていない。したがってwhileは入れないのだ。

①(for)はの場合、後ろには「数詞などを伴った期間を表す名詞」がくる。

(ex) I have lived here for three years. 私は3年間ここに住んでいる

World War 2 lasted for more than four years.

第1次世界大戦は4年以上も続いた

④(among)は、「物理的な位置関係」や「分布」における意味での「～の間」という意味(これは betweenなども同じ)。

(ex) I see a house among the trees. 木立の間に家が見える  
It was my first night among strangers.  
それは私が初めて他人の中で過ごした夜でした

②(during)は、後ろに「具体的な出来事や期間を表す名詞」がくるのが特徴。

(ex) I invited her to dinner during her stay here in Japan.  
ここ日本に彼女がいる間に私は夕食に招待した  
During the night the snow changed to rain. 夜中に雪は雨に変わった  
I went to Japan for two weeks during the summer.  
私は夏に2週間日本へ行った

本問は空欄直後に「最近した旅行」という「具体的な出来事を表す名詞」があるので、②が正解となるのだ。

4.

Just after putting her son to sleep, ( ).

- ①Nancy got a telephone call
- ②the telephone rang
- ③the door bell was heard to ring
- ④a strong earthquake occurred

《解答》

①(子供を寝かしつけた直後に、ナンシーは電話を受けた)

《解説》

一見4つの選択肢どれも正解に見えるが、動名詞の意味上の主語についての知識があれば、正解を特定するのは簡単だった。

動名詞の意味上の主語については、こんなルールがある。

- ①意味上の主語が主節の主語と同じならば明示しなくて(書かなくて)いい
- ②意味上の主語が主節の主語と異なる場合には明示しなくては(書かなければ)な

らない

主節とは、接続詞などのついていない「裸のS+V」のこと。本問では、4つの選択肢が主節に相当する。

さてそこで本問の場合、前置詞の after の直後に置かれた putting は動名詞と見ることができる。そしてこの putting には意味上の主語がついていない。

動名詞の意味上の主語は「所有格」「目的格」又は「名詞」を動名詞の前に置くことで表す。

(ex) I insisted on his attending the meeting.

私は彼が会合に出席することを要求した

上の例文中の his が attending(動名詞)の意味上の主語。「彼が出席する」と、両者は「主語と述語の意味関係」になる。

意味上の主語がついていないということは、

「putting の(隠れた) 意味上の主語 = 主節の主語」

ということになる。そうすると、4つの選択肢の主語で、putting her son to sleep(息子を寝かしつける)ことのできるのは①の Nancy しかない。それ以外の選択肢を選べば、「電話」「ドアのベル」「強い地震」が「息子を寝かしつける」という意味関係になってしまうのだ。

5.

The storm raged all night, during ( ) time the climbers waited to be rescued.

①which    ②how    ③whose    ④what

《解答》

①(嵐は一晩中吹き荒れた。そしてその間、登山者たちは救出されるのを待っていた)

《解説》

これはとても簡単で、選択肢が関係詞関連で、問題文の空欄前後が

，前置詞 + ( ) + 名詞 + 完全な文

という構造だったら、(選択肢が関係詞関連である場合)which を入れたら正解と覚えておけばいい。

④「完全な文」とは、S・O・C等の文の主要素がきちんと揃った(欠けたものがない)英文のこと。

④, during which time 部分は and during that time(そしてその間)と読み換えるようにするといいい。

6.

His stomachache grew worse. ( ), he didn't complain.

①But    ②Still    ③Though    ④So

《解答》

②(彼の胃の痛みはひどくなったが、それでもかれは苦痛を訴えなかった)

《解説》

まず形から①(But)と③(Though)の可能性が消える。なぜなら **but は and や or 同様、前後を等しい構造で結びつける接続詞。直後がカンマで区切られて用いられることはないからだ。**それから、

But S+V~.

のような使い方もない(結びつける両者があって始めて使われる)。

though の場合、「しかしながら」という意味の副詞として使われる場合、直後がカンマで区切られることはある。

(ex) It's true, though, for all that. でも、やっぱりそれは本当なんだ

しかし、この用法の **though は文頭に置かれることはないのだ**(同じ意味で However なら文頭に置ける)。

(ex) However[×Though], the issue should be considered more carefully.

しかしながらその問題はもっと注意深く考えるべきだ

「え？ though が文頭で使われた英文見たことありますけど…(o>ω<o)」

という人。それは接続詞の though なのだ。接続詞の though の場合には、直後に「S+V」の構造が続き、本問のように直後がカンマで区切られるような使われ方はしない。

(ex) Though it was raining, we played baseball.

雨が降っていたが私たちは野球をした

so は直後にカンマが置かれることもあるが、「それ故、したがって」という意味で、本問では文意に合わない。

で、正解は still なのだが、still は「それでも」「にもかかわらず」という(however に近い)意味になることがある。本問のように、節の頭に置かれ、直後がカンマで区切られることも多い。

(ex) I'm tired; still, I must work a few hours more.

疲れてはいる。それでもあと数時間働かなくてはならない